

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 8 年 5 月 25 日
②法人・団体名	特定非営利活動法人 ユースコミュニティ		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	〒143-0024 東京都大田区中央 8-22-13		
④責任者氏名	濱住 邦彦	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	濱住 邦彦	(役職名等)	代表理事

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R07-017	⑦助成金額	98 万円	⑧申請カテゴリー	D
⑨奨学活動名	地域と取り組むユースワーカー育成事業				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	学習会→区内公民館 教材や動画→団体事務所および映像制作スタジオ等				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

現在、当団体は主事業として、子どもの学習支援と居場所づくりに取り組んでいる。教室や居場所で活動するボランティア登録者は常に 100 名を超え、大学生を中心に社会人・シニア等、幅広い人達の協力を得ている。こうした協力者のスキルアップ、特にソーシャル支援の向上を目指し、ユースワーカー育成事業と銘打ち、取り組んだ。活動概要とアウトカムは以下のとおりである。

① 他団体と連携した学習会 10 月・11 月・3 月

10 月：大田区の NPO 約 30 団体が加盟している協議会と連携して、学習会を実施。

11 月：弊団体が取り組んでいる活動者会議を拡大。NPO 法人 BORDER FREE、法政大学名和田ゼミ、大田区社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターを招き、報告会と分散会を行った。

3 月：成果報告会を実施。ボランティアスタッフ 6 名が代表して経験報告を行い、分科会で補強した。NPO 法人キーパーソン 21 で活動されている元高校教諭の方がコメンテーターとして参加。

② かんたんハンドブックの制作

事業成果のテキストとして、活動中は常に携帯できるようポケットサイズのハンドブックを作成。

外部の視点をカジュアルに導入するため、SMB C のプロボノチームに約半年間ご協力をいただき、企画段階から完成までサポートしていただいた。

③ 導入研修で使用する動画作成

上記のプロボノチームとともに、導入研修で使用するスライドを製作。そのスライドを基礎として、映像ディレクターとナレーターの協力を得ながら、約 10 分間の研修動画を完成させた。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3-2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
大学生等	54	2.5	135	平均人数 13 人 x 研修 3 回、ヒアリング 15 人
学習支援員等	37	2.5	92.5	平均人数 9 人 x 研修 3 回、ヒアリング 10 人
合 計			227.5	

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：地域と取り組むユースワーカー育成事業

法人・団体名：特定非営利活動法人ユースコミュニティー

作成者 氏名：濱住 邦彦

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

私たちは地域の課題を地域で解決することを目指し、2012 年から子どもの学習支援・居場所づくりに取り組んでいます。大田区内に 11 拠点・23 クラスを運営。コロナ禍からの立て直しを図り、新たな支援者を掘り起こした結果、約 100 名のボランティアスタッフが活動しています。

一方、こうした多くの人達が関わる活動においては、安全性や支援のクオリティーを保つため、十分な配慮と仕組みづくりが必要になります。特に私たちのような NPO の学習支援における活動では、学力の教授にとどまらず、年齢や発達段階に応じた適切なアプローチ、子どもが安心して過ごせる環境づくり等、ソーシャル面のスキル醸成が大切です。

こうした面に対するボランティアへの団体サポートが不十分な場合、効果的な活動ができないばかりか、ミスコミュニケーションの発生、ひいては活動からの離脱といったリスクが高くなる可能性があります。その為、今回の助成事業では、ボランティアスタッフ（学習サポーター）の講師面ではなく、ソーシャル面（ユースワーク）の支援力育成を目指しました。

具体的なアクションとしては、他団体や識者と連携した研修会（学習会）を開催。さらには外部コンサル（プロボノ）の協力のもと、現状課題の洗い出しから、改善策の提案、スムーズに効果が表出できるコンテンツの制作（ポケットブック・スライド動画）を取り組みました。

2. 実施した奨学活動の詳細

① 他団体と連携した学習会 10 月・11 月・3 月

10 月 26 日開催：大田区の NPO 約 30 団体が加盟している協議会と連携した学習会を実施。講師（話題提供者）に NPO 法人ウィーズの光本氏を招き 14 人が参加。（その他、スクールソーシャルワーカー、区議会議員等 4 人が参加）

11 月 23 日開催：弊団体が行っている活動者会議を拡大。NPO 法人 BORDER FREE の二宮理事長、法政大学※名和田教授のゼミ生（※名和田教授は、大田区の生涯学習推進プラン委員会の会長）、大田区社会福祉協議会の地域福祉コーディネーター北澤氏、大田 NPO 活動団体交流会会長石川氏を招き、報告会と分散会を行いました。37 人参加（その他、報告者、コメンテーター等 14 人がゲスト参加）。

※11 月 25 日には、上記の名和田教授を招き、あらためてゼミ生と学習サポーターの交流学習会を行いました。

3 月 29 日開催：成果報告会を実施。ボランティアスタッフ 6 名が代表して経験報告を行い、その後の分科会で共有を深めました。NPO 法人キーパーソン 21 で活動されている元高校教諭がコメンテーターとして参加。24 人が参加（コメンテーター等、ゲストを除く）。

11月23日の学習会の様子



上記学習会の団体内レターの抜粋

ありがとうございます！
ご参考下さい

サポーター報告 ● 学習サポーターとして心掛けていること



学習サポーター：さん
 ・大学4年生（専攻：心理学）
 ・活動歴：2022年12月～
 ・主な所属：

心理学の視点でスタッフの関わり方や教室で起こっていることの言語化を右のように発表してもらいました！

生徒との相談場面で気を付けていること

- ※相談の場
 - ・影響性：相手の任意性・自由性によって相談姿勢
 - ・柔軟性：柔軟な対応と臨機応変
 - ・境界の設定：その場でどこまで関わり得るか、話術責任を果たすこと
- ※フィードバック
 - ・重要性：「必要なことを必要な時に必要なだけ」伝える
 - ・順番と表現：共に理解を進めながら相談内容、対応ができていたのか
 - ・録の残存：自分視点でのアドバイスなのか、相手の視点になったアドバイスなのか

サポーターとしての経験を通して

- ※言葉を拾うこと
 - ・学校での悩みを話すことに躊躇するのときや、不安
 - ・本音が伝わりを言葉として発してくれただけにリアクションを示す
 - ・相談のハードルを下げる
- ※教育現場のここらと私たちにできること
 - ・関係性の構築の移行
 - ・家庭外の環境に目を向けることの重要性
 - ・サポーターという特別性

藤平さんは「ユースコミュニティでのボランティア活動を通して、**生徒の言葉を拾うことが信頼関係の構築に重要であることに気づいた**」と話されていました。心理学の見地から「青年期は自己確立を目指す時期であり、**家族から友人への関係性の移行が見られる時期**」とし、親子の心理的な分離が課題であり、**サポーターはその中で支えとなる存在である、と見ているとのこと**です。先生でも家族でも先輩でもない大人が、子どもにとって「**特別なポジション**」にこの認知をもって、関わることでなくにかに接することができるかがサポートの課題ではないかと伝えられました。参加者の方々も深々と頷きながら、自身の活動を振り返っている様子も多く見られていました。その他にも教室での会話は計画されたものではなく、「**その場で即興的に起こるコミュニケーション**」という前提に立ち、ご自身の経験から得た生徒との接し方のポイントをたくさん共有していただきました。ありがとうございました！

事例報告 ● 事例から見る生徒アプローチとその変容

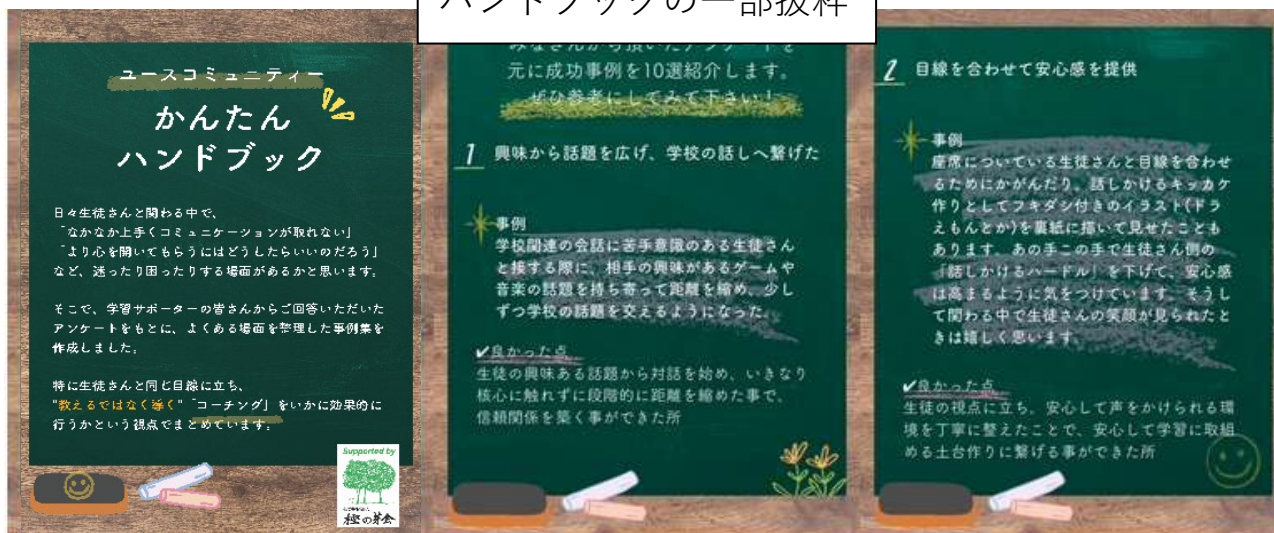


② かんたんハンドブックの制作

SBMC グループから社員様 4 名によるプロボノ協力をいただき、夏から年末までの約半年間にわたりコンサルティングを実施してもらいました。具体的な取り組みは以下のとおりです。

1. 現役学習サポーター（12 名）へのヒアリングレポート
2. 生徒と向き合う中での成功／失敗体験についての学習サポーターへのアンケート結果レポート
3. 学習サポーター説明会資料のバージョンアップ（学習サポーターの声を反映した新規スライド追加・資料全体の更新）
4. 学習サポーターとしての心構えをまとめた、常時携帯を想定したハンドブック（全 16 ページ、下記参照）を製作

ハンドブックの一部抜粋

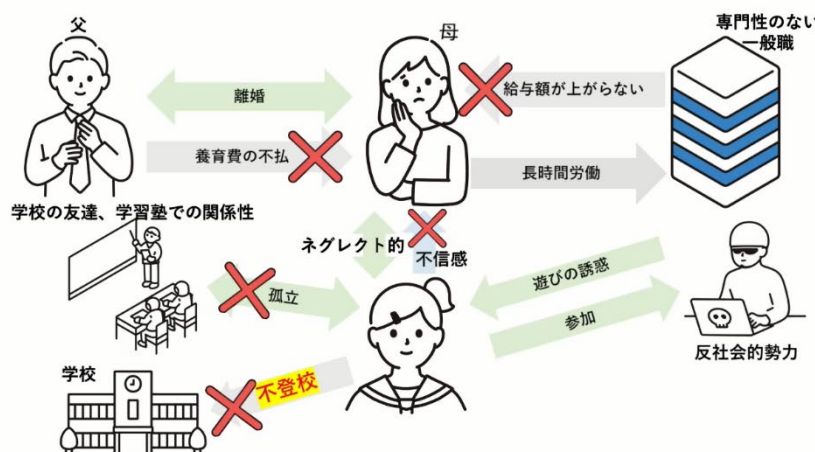


③ 研修で使用する動画作成

上記のプロボノチームとともに、研修で活用するスライド資料を作成しました。さらに、このスライドをもとに、映像ディレクターと音声ナレーターのプロボノ協力を得ながら、約 10 分間の研修動画（下記参照）を製作しました。

●生活困窮が引き起こす社会的孤立とは？

【とある母子家庭のケース】



スライド動画の一部抜粋

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

SMBC グループのプロボノチームという外部が主体になり、コンサルティングの一環で、ボランティアスタッフ（学習サポーター）へのヒアリングとアンケートを実施しました。その結果を分析したところ、団体があまり想定していないような課題が明らかになりました。このことは、内部調査では、その回答に一定の忖度が発生することが予想されますが、今回外部の方が関わったことで現状が明るみに出たという成果と考えています。具体的な例をいくつか挙げると、ソーシャル面の支援に踏み込む最初の段階として、そもそも「生徒となかなか上手くコミュニケーションが取れない」、「心を開いてもらい信頼関係を構築するにはどうしたら良いか分からない」などといった類の回答が散見されました。特にこうした課題は、新人ボランティア（新人学習サポーター）の途中離脱に繋がることの要因だと分析しました。そこで解決に向け、生徒の背景にある課題の共有や団体のミッションを踏まえ、学習サポーターの活動内容が単なる塾講師的役割にとどまらないこと、さらには、先輩サポーターの実際の声を加えることで、現在活動している学習サポーター、これから活動しようとする学習サポーターに具体的な活動イメージを持ってもらえるようなスライド動画の完成。そして”学習指導方法＜生徒との関係性の構築”という観点で、よくある場面ごとに Tips を集め、活動の中で都度確認できるよう携帯型ポケットハンドブックを制作できたことは大きな成果だと考えています。

これら制作したコンテンツの本格的な実施はこれからですが、早くも肯定的な意見が寄せられ、効果が少しずつ実感できています。またポケットブックに関しては、類似の課題に取り組んでいる地域団体にも配布し、私たちの実践と経験が地域にポジティブな影響を与えられるように努めています。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

上記しましたが、外部コンサルが関わることで、学習サポーターの現状がつまびらかになりました。当初団体が思い描いていたこととの強い乖離もありましたが、前向きに捉え、こうしたフィードバックをしっかりと受け止め、今後の活動のさらなる発展に生かしていきたいと考えています。またこのような機会を得る契機となった助成事業のご採択に心より感謝いたします。今後ともよろしくお願いいたします。